

# 武蔵国分寺跡資料館だより

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum Newsletter

編集・発行・印刷

見る / 学ぶ / 訪ねる /  
武蔵国分寺跡資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum

[住所] 〒185-0023 東京都国分寺市西元町1-13-10  
[電話] 042-323-4103 [FAX] 042-300-0091  
[E-mail] museum@city.kokubunji.tokyo.jp  
[HPアドレス]  
http://www.city.kokubunji.tokyo.jp/shisetsu/kouen/1005196/1004239.html

2023.2  
第50号



## 発掘調査・文化財と3D

### 発掘調査

現在国分寺市では市役所の新しい庁舎の建設を行っていますが、事前に発掘調査（武蔵国分寺跡第770次調査）を実施し、昨年6月には現場説明会を開催しました。市内で行う発掘調査は、このように建設工事などにより地中の埋蔵文化財を残せない時、その代わりに記録をいて残すための調査が主となっています。

これまでの調査の成果は、発掘調査報告書として研究機関や図書館に配布する300部程度を刊行することで公開してきました。これに加えて奈良文化財研究所の**全国遺跡報告総覧** (<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>) で報告書のデータの公開を順次進めています。



### 全国遺跡報告総覧トップページ

770次調査では奈良文化財研究所・産業技術総合研究所に協力して、発掘調査現場の3Dデータの作成と公開を行いました。このデータは奈良文化財研究所の**3D DB Viwer** ([https://grst.digiarc.aist.go.jp/nabunken\\_aist/index.html](https://grst.digiarc.aist.go.jp/nabunken_aist/index.html)) の「国分寺市役所新庁舎建設地点の地下遺構」で見ることができます。

発掘調査現場は縦×横×高さのある三次元の空間ですが、報告書では当然のことながら縦×横の二次元の情報に変換して紙の上に表現して



### 3D DB Viwerトップページ

ます。これを読み解くには、若干の訓練や経験が必要になりますが、3Dデータではより直観的に理解できます。実際には見られない角度、例えば発掘調査で掘った深さを地中の真横から見るといった使い方も可能です。また建設される庁舎の3Dデータを表示して、過去から未来までの情報を一体のものとして見ることができます。



3D DB Viwer 770次調査を上空から見る



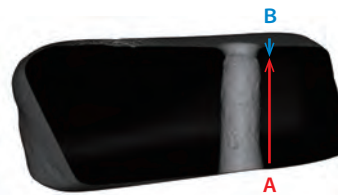
3D DB Viwer 770次調査を地中真横から見る

### 文化財

発掘調査現場だけではなく、文化財についての3Dデータの作成も行っています。博物館などで資料を展示する際には裏面や底など全方位から見られるようにすることは不可能ですが、3Dデータでは自由に見ることができます。資料の現状の記録を残すという点でも重要な作業です。



硬玉製大珠 全体



硬玉製大珠 横断面



硬玉製大珠 断面

※横断面をみると穴の上部にくびれが確認できます。下面から穴を開け(A)、穴が貫通する位置を確認しながら、上面から開けた(B)工程が推測できます。

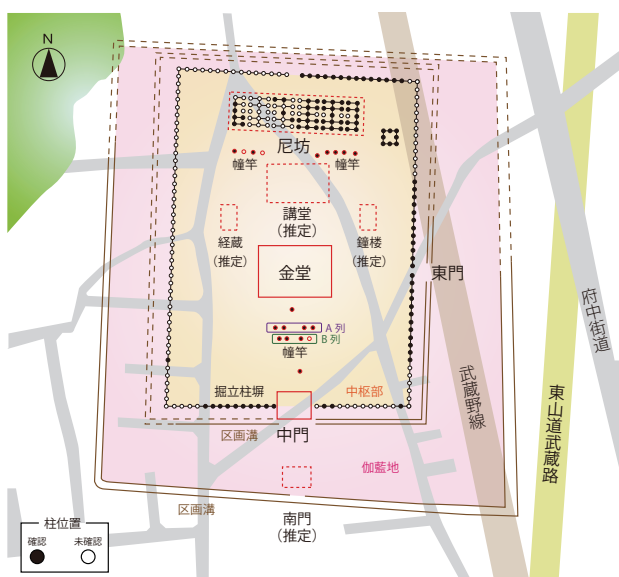
上図は資料館で展示している恋ヶ窪遺跡出土の縄文時代の硬玉製大珠を3Dデータにしたものです。データを加工することで、穴が貫通している様子や穴をどのようにあけたのかということを見ることができるようになりました。

作成した3Dデータは、来年度以降公開する予定です。

(3Dデータ作成：野口淳、上山敦史、津田富夢)  
(中野 純)

## 武蔵国分寺跡／史跡調査のあゆみ（後編）

昭和49年（1974）から同57年（1982）までの第1期寺域確認調査の後、昭和61年度からは国分寺市教育委員会による第2期寺域確認調査が始まりました。この調査は史跡整備を前提とした調査であり、整備対象となる僧寺・尼寺の中心建物の確認とデータ収集を主な目的とし、伽藍地の周辺に加えて、史跡地近くに所在していた旧国分寺市立第四小学校の敷地も調査対象地としました。まず僧寺中枢部区画施設内の各区画の溝や柱穴、尼寺の伽藍地区の溝をそれぞれ確認しました。その後、平成4年度から同7年度まで尼寺地区を対象とした事前遺構確認調査を行いました。その結果、金堂・尼坊の規模、中枢部区画、中門、東門などの存在が判明し、尼寺伽藍地は幅2.1m～3m、深さ1.5mの素掘り溝で区画され、概ね東西約150m、南北推定160m以上の規模であったこともわかりました。（下図）



尼寺伽藍配置図

続いて平成15年度から僧寺地区の事前遺構確認調査を開始し、概ね僧寺地区の南側から各遺構を北上する形で行いました。平成15年度～同20年度に行った南門・中門及び塔跡の調査では、南門は礎石建ちの建物と判明し、柱の位置と間隔から棟門と推定され、それまでの「南大門」という名称が見直されることとなりました。また、区画溝の変遷から数回の造り替えがあったこともわかりました。中門は創建期には入母屋ないしは寄棟の礎石建物だったものが掘立柱建物に建て替えられたこと、東側の調査で中門に取り付く塀が掘立柱塀から築地塀に造り替えられたことが判明しました。

塔跡では従来の塔跡（塔跡1）の西側50mにほぼ同規

模の第二の塔跡（塔跡2）を発見しました。後世の耕作による上層の削平で礎石や基壇外装や周囲の石敷などは確認できなかったものの、版築の様相や出土遺物から9世紀中ごろの築造と推定できます。

平成20年度から2年に渡り行われた講堂跡の調査では、創建時と再建時の礎石や基壇の位置、外装及び堀込み地業などから講堂の再建時期を検討し、講堂は再建時に一部の礎石の据え直しと外装全体の造り直しが行われ、南面と北面に階段を増築した事が判明しました。金堂跡の調査は平成21年度～同22年度と平成24年度に行われ、雨落石敷や基壇外装、階段の様相が明らかになりました。また平成22年度には鐘楼跡の調査を、その翌年度には経蔵東側の発掘調査をそれぞれ行い、鐘楼跡に施された基礎地業が従来考えられていた壺堀地業ではなく、建物全体に及ぶ堀込み地業であることがわかりました。

伽藍地の各堂間地区の本格的な調査も行い、平成19年度～同21年度に中門・金堂間と金堂・講堂間の調査が進められました。その結果、礎石や瓦片を敷設した通路遺構を発見するとともに、幢竿遺構も多く検出しました。

これらの調査と並行して東山道武蔵路跡の調査が断続的に行われました。昭和50年代から南北に一直線に走る2条の平行した溝の存在が注目され始め、国分寺市でもSF1道路跡という遺構が東山道武蔵路跡であると考えられていました。平成に入ると西国分寺地区（現泉町地区）の旧国鉄中央鉄道学園跡地で「住宅市街地整備総合支援事業」・「土地区画整備事業」に基づく開発が計画され、平成5年度～同7年度に西国分寺地区遺跡調査会、平成7年度～同10年度に東京都埋蔵文化財センター、平成12年度に国分寺市遺跡調査会による調査がそれぞれ行われました。平成9年度に姿見の池（西恋ヶ窪地区）で行われた発掘調査では敷粗朶工法による版築道路遺構が発見され、市内に残る東山道武蔵路跡の全容が徐々に明らかになりました。その後、平成18・21年度に国分寺市遺跡調査会が西元町地区の調査を行い、道路の両側に展開する集落の様相などが確認できました。この様に東山道武蔵路跡の調査は3地区にわたる広範囲なものとなり、その結果高い土木技術を駆使した幹線道路であることが判明しました。

昭和末期から平成にかけての武蔵国分寺跡の調査では、伽藍地のみならずその周辺地区を対象としたことにより、中枢部施設の詳細な姿やその変遷に加えて周辺施設の姿も明らかになっていきました。（石井 秀和）

## 武蔵国分寺跡／史跡公園のあゆみ

武蔵国分寺跡が国史跡に指定された当初、史跡指定地は現地凍結保存の方針により指定当時の状態のまま保存する事が求められました。しかし、史跡保護のあゆみ（「武蔵国分寺跡資料館だより第48号」掲載）でも述べたように、昭和30年代後半の高度経済成長期に国内各地で史跡の住宅開発問題が発生し、史跡指定地域の活用方法が検討され昭和40年（1965）に史跡公園化構想が打ち出されました。この構想は遺跡そのものを展示対象とする野外博物館を意識したもので、史跡地を史跡公園として整備・公有化して地域社会へ還元するという考えです。

国分寺市でも昭和41年（1966）に史跡公園化構想を公表し、僧寺跡中心部の史跡公園整備を昭和46・47・49年度に行いました。その後昭和49年から始まった寺域確認調査の結果を踏まえて、より忠実な形での整備に取り組むこととなり、平成元年に「史跡武蔵国分寺跡保存管理計画」を策定しました。平成4年度から武蔵国分寺跡の整備事業を開始し、平成15年に市立歴史公園武蔵国分寺跡が開園しました。



公園整備に伴う測量作業の様子(昭和46年)

続いて僧寺跡の整備に着手しますが、中枢部に先んじて国分寺崖線上の伽藍地区画溝が含まれる僧寺北東地域と武蔵国分寺跡資料館が位置する崖線下地域を自然環境保全の観点から緊急整備を行い、平成20年に市立歴史公園武蔵国分寺跡（僧寺北東地域）が、その翌年に市立歴史公園史跡武蔵国分寺跡（国分寺崖線下地域）がそれぞれ開園しました。

整備工事の進捗に応じて新たな整備構想を検討し、平成15年3月に「史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）新整備基本計画」を策定しましたが、指定地公有化の進展や追加指定による整備区域の拡大、地域内の道路問題など史跡を取り巻く環境が変化したことで整備計画の改定が必要となり、平成19年に史跡と周辺環境の調和を図るため「史跡武蔵国分寺跡周辺地区まちづくり計画」を定めま



史跡地で凧あげを行う子どもたち(昭和42年)

した。そして平成21年に「史跡武蔵国分寺跡（僧寺地区）整備実施計画」を策定し、僧寺地区の伽藍地の本格的な整備工事を行うこととなりました。

その後、平成26年の講堂跡の瓦積基壇の復元工事竣工を皮切りに、平成29年に中門跡・鐘楼跡の整備工事が完了しました。更に同年から2年の歳月をかけて金堂跡とその周辺の整備工事を行い、平成31年3月に僧寺跡の金堂・講堂・鐘楼・中門跡を中心とした市立歴史公園武蔵国分寺跡（僧寺中枢地域）を開園しました。

史跡整備と並行して史跡武蔵国分寺跡は国分寺市を代表する場所として市民に親しまれてきました。昭和40年代に公園として整備された僧寺中心部は、長らく市民の憩いの場として利用されています。現在では散策しながら自然や歴史に触れることが出来る場所として知られ、春先や秋には桜や紅葉を見に市内外から多くの人々が訪れています。近年では、史跡ガイドボランティアによる現地案内など史跡を訪れた人々に武蔵国分寺跡の理解を深めてもらう取り組みや、万葉花まつり（平成31年3月終了）の様にて天平文化と関連させた行事や春の桜のライトアップなども行っており、歴史を学ぶと共に史跡の新たな魅力を感じることが出来る場として活用されています。（石井 秀和）



万葉花まつりの様子(平成13年)

令和4年度の整備工事のご報告

武蔵国分僧寺の伽藍中枢地区（金堂・講堂・中門・鐘楼等）の整備工事が令和2年度に完了して以降、市では南門地区の整備工事を進めています。令和4年度の史跡整備工事は、南門地区全体で倒木の恐れがある樹木・老木を対象に修景工事を行い、参道・南門・中門・金堂・講堂が南北一列に並ぶ伽藍中軸線の視界を確保しました。令和5年度以降は、「万葉集」に記されているガクアジサイ・ウメ・イロハモミジ・ヤマザクラ等、天平時代を反映した樹種を選定し、随時植栽する計画です。また、令和7年度までに中門に取り付く参道、南門・伽藍地南辺区画溝等の遺構復元と、便益施設（東屋・ベンチ）・大型模型・植栽を行い、史跡地南側のエントランス整備を進めます。



中門跡から南方向をのぞむ

幡のレプリカを作成しました

幡は、仏像や堂を飾る荘厳具の一つで、法会などの行事の際に仏殿の前面に掲げられた布のことです。武蔵国分寺跡の僧寺では幡を支える柱の幢竿の跡が、講堂前に一列、金堂と中門の間に二列が見つかっています。作成した幡は、武蔵国分寺跡で開催された「武蔵国分寺跡史跡指定100周年姉妹都市・交流都市文化交流イベント」（11月3日）の会場を飾りました。来年度以降もイベント等で掲げる予定です。



金堂前面地区に掲げられた幡

来館者数

2009年10月18日～2022年12月末日

来館者数累計 165,033名

おたかの道湧水園無料公開：2022年10月12日～11月6日まで

多くのご来館ありがとうございました

【8月～12月の学校見学】

	学校数	人数
小学生	2	95
中学生	3	207
高校生	1	22
大学生	5	90

月	来館者数	開館日数
8	623	26
9	1,010	26
10	3,434	26
11	2,667	26
12	570	24
計	8,304	128

【8～12月の学校見学】

武蔵台小（3年生）、市立五小（6年生）、羽村一中（1年生）、稲城三中、市内二中（1年生）、立川女子高校、創価高校、創価大学、駒澤大学、専修大学、福島大学、立正大学など

○来館者数は、おたかの道湧水園の入園者数

武蔵国分寺跡資料館ご利用案内

※新型コロナウイルス感染症対策のため、マスクの着用・手指の消毒などにご協力ください。



交通のご案内

【電車】JR国分寺駅下車／徒歩約20分 JR西国分寺駅下車／徒歩約15分

【バス】国分寺市循環バス『ぶんバス』万葉・けやきルート「史跡武蔵国分寺跡」下車／徒歩約8分  
 国分寺市循環バス『ぶんバス』日吉町ルート「泉町一丁目」下車／徒歩約8分  
 国分寺駅南口より「京王バス」系統番号く寺83・く寺85乗車「泉町一丁目」下車／徒歩約8分

■開館時間

午前9時～午後5時（入園は午後4時45分まで）

■休館日

毎週月曜日（祝日・振替休日の場合はその翌日）  
 年末年始（12月29日から1月3日まで）  
 ※展示替えなどで臨時休館することがあります。

■入園料

資料館に入館するには「おたかの道湧水園」への入園料が必要になります。（入園券は史跡の駅で販売）  
 一般……………100円（年間パスポート1,000円）  
 中学生以下……………無料

【入園料の減免規則があります】

- 学校の教育活動で生徒（中学生を除く）、学生及び引率の教職員が入園するとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕
  - 身体障害者及びその介護者が入園するとき〔発券窓口の史跡の駅で身体障害者手帳等の提示が必要です。〕
  - その他教育長が特別の理由があると認めるとき〔事前（5日前まで）に減免申請書の提出が必要です。〕
- ※減免申請書は、国分寺市のホームページからダウンロードできます。

見る 学ぶ 訪ねる

武蔵国分寺跡  
資料館

Musashi Kokubunji Temple Remains Museum



ホームページQRコード